

NEWS RELEASE

平成 21 年 7 月 1 日

電通創立 108 周年記念式典で高嶋社長が挨拶

―皆で力を合わせて、新たな取り組みをしていこう―

株式会社電通（高嶋達佳社長）の創立 108 周年記念式典が、7 月 1 日（水）午前 10 時から東京本社と、関西、中部の各支社で開催された。東京本社の 108 周年記念式典は汐留本社ビル 1 階電通ホールで行われ、高嶋社長が所信を述べた。要旨は以下のとおり。

◇

電通グループの創立記念日にあたり、電通、そして電通グループが非常に厳しい状況を迎えている現在、どのようにこの困難を乗り越え、会社を成長させていくのかという私の思いを皆さんにお伝えする。

テクノロジーの進歩による「デジタル化」が到来し、特に、デジタルメディアの登場により、生活者の消費行動、メディア接触、そして流通システムなどが、僅か数年で大きく変化した。これから先も更に速いスピードで変化が続いていくことは間違いない。

「デジタル化」は、私たちにとっては大きなチャンスでもある。広告、マーケティング、コミュニケーション、そしてメディアの領域などで、新しい世界を創り出すことを可能にしてくれた。このチャンスを最大限に生かして、新しい道、新しい世界を創り上げていくことが必要である。

電通グループは、今、非常に厳しいビジネス環境に置かれている。昨年来の世界的な経済不況と、広告業界の構造的な転換期が重なっているため、この状況から簡単に抜け出すことはできない。現在の電通のビジネスモデルが、大変厳しい状況に直面している現在、スピードを上げて新たな取り組みをしていかなければ、生き残ることは難しい。例えて言うならば、樹齢 100 年の大木に変わるような、大きな木をすぐに求めることには無理があり、むしろ、新しい可能性の芽を育み、それらを成長させ、束ねた集合体が大木のようになり、電通、そして電通グループのこれからの新たな繁栄を築いていくことになるのだと、私たちは覚悟を決める必要がある。

社長就任以来掲げている、「デジタル」「グローバル」「ソリューション」という領域も、早く育てて、太い幹にしていかなければならない。そのためには、社員ひとりひとりが新しい仕事、新しいビジネスチャンスに果敢に取り組んでいくという気概で、自分自身が変わらなければならない。今までとやり方を変えてみたり、新しい領域について率先して学び、身に付ける努力を怠ってはならない。会社も教育システムを提供するなど、サポート体制を強化していく。

そして、長い期間を経た制度やシステム、その運用方法などを細かく見直し、新しい時代に即した「電通グループのあるべき姿」の枠組みづくりを大胆に進め、変革していく。今後、様々な施策を検討、導入していくが、皆で力を合わせて乗り越えていかなければ、電通、そして電通グループを変えていくことはできない。

今年導入した、電通グループの企業理念にあるように、「その手があったか」「そこまでやるか」「そんなことまで」と言われるような、電通らしい「Good Innovation.」をたくさん起こしていこう。

以上